



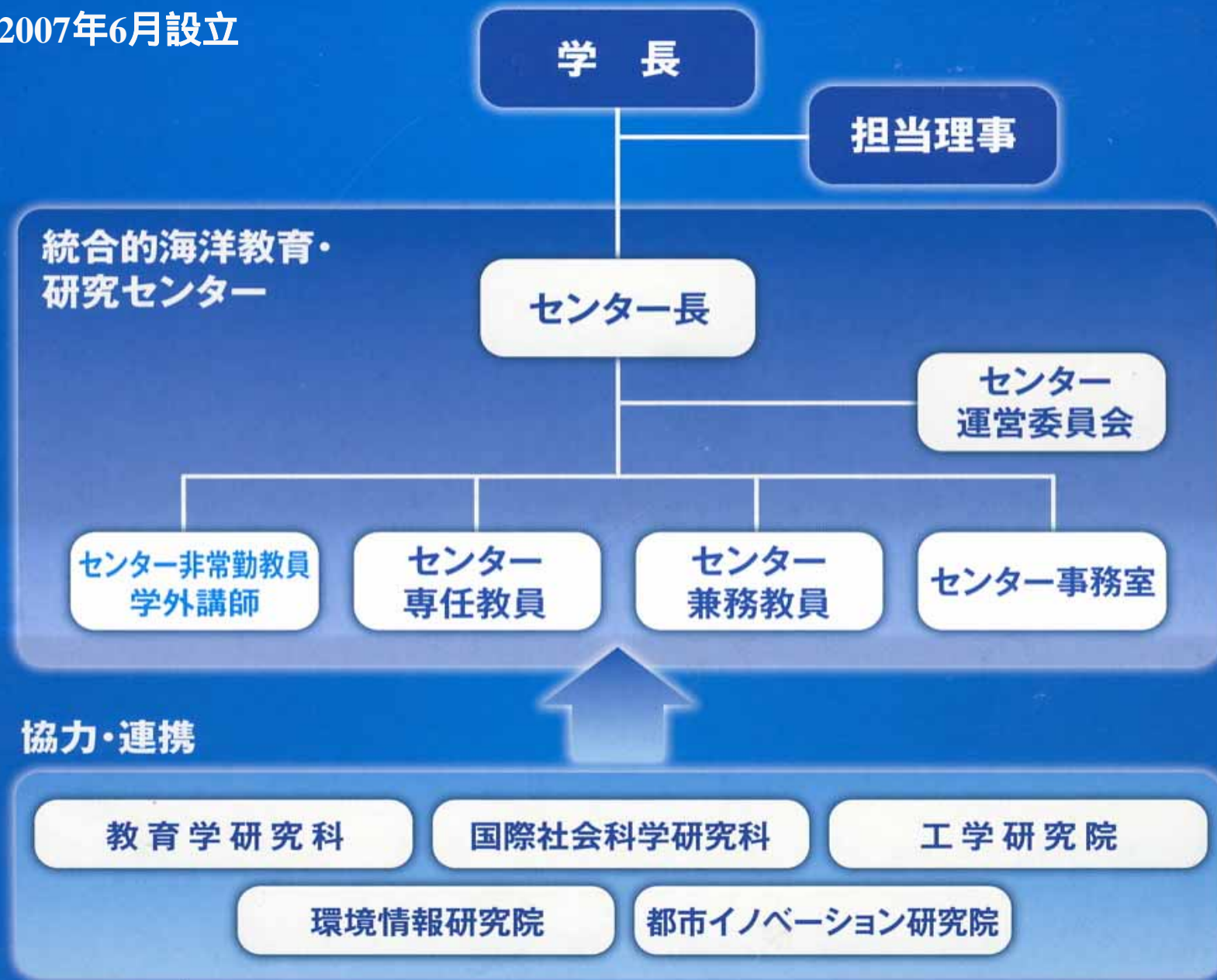
# 高い意識を持つ海洋人材の育成 副専攻プログラム: 統合的海洋管理学 の経験から

横浜国立大学  
統合的海洋教育・研究センター(海センター)

池田 龍彦  
tikeda@ynu.ac.jp

# 統合的海洋教育・研究センター組織図

2007年6月設立



# 統合的海洋管理を担う人材育成 - 連携プロジェクトを通じた高度専門職業人の育成 -

(下図の包括連携協定のうち、青で表記の3件を、海センター発足後に締結)



# 統合的海洋教育・研究センター 大学院副専攻プログラム「統合的海洋管理学」科目関係図

## 【プログラム関連科目】 「人文・社会科学系」

- ・国際法I・II
- ・沿岸域管理の法制度
- ・国際海運政策特論
- ・海洋政策・法制特論
- ・海の環境法

⋮

## 【プログラム関連科目】 「工学・都市防災系」

- ・耐風工学特論
- ・海洋産業特論
- ・海洋宇宙システム工学輪講I
- ・リスクベースによる規則制定手法
- ・海洋設計システム論
- ・水圏防災論
- ・水圏環境論

⋮

## 【プログラム特設科目】 (必修コア科目)

- ・統合的海洋管理学I
- ・統合的海洋管理学II

## 【プログラム関連科目】 「環境科学系」

- ・海洋古環境学
- ・海洋生物多様性学
- ・立地群落学
- ・生態リスクマネジメント理論
- ・構造物安全設計学
- ・動物学演習・地質学演習

⋮

# 統合的海洋教育・研究センター 大学院副専攻プログラム「統合的海洋管理学」分野関係図



## 【プログラム特設科目】(必修コア科目)の講義内容

### ■ 統合的海洋管理学Ⅰ(秋学期開講)

講義回	部	講義タイトル
1	Ⅰ 海を知る	海洋政策概論(1)-海洋基本法:基本計画等
2		海と人間生活
3		海と地球の歴史
4		海洋の物理
5		海の化学
6		海の生物
7		海を教える
8	Ⅱ 海を利用する	水産資源の利用と可能性
9		海底資源の利用と可能性
10		海のレジャーとレクリエーション
11		海上輸送の歴史と将来
12		造船技術の歴史と将来
13		港湾開発の歴史と将来
14		海底観測の現状と今後
15	シンポジウム	
16	ポスターセッション	

### ■ 統合的海洋管理学Ⅱ(春学期開講)

講義回	部	講義タイトル
1	Ⅲ 海を管理する	海洋政策概論(2)-日本の200海里水域の基本的課題
2		日本の海洋・沿岸域管理制度
3		海事活動の国際管理
4		管轄海域(領海・排他的経済水域・大陸棚)の管理
5		海洋の安全保障
6		絶海孤島の海洋管理-無人島と海洋保護区
7		持続可能な水産業の姿
8	Ⅳ 海を守る	海事技術による安全性向上と環境影響の低減
9		海底の地盤環境と資源開発
10		深海探査技術の現状と将来
11		海を守る海洋土木・建設
12		沿岸域や海岸の利用と環境保全との現状
13		沿岸域の汚濁と環境再生
14		海洋環境の再生
15		総合討論

2011.7.25更新

# 特設科目履修性の人数の推移（公開講座聴講生含む）

開講年度	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度		H24年度	
開講時期	H19.10- H20.7		H20.10- H21.7		H21.10- H22.7		H22.10- H23.7		H23.10- H24.7	
期	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
開講時期	H19.10- H20.2	H20.4- H20.7	H20.10- H21.2	H21.4- H21.7	H21.10- H22.2	H22.4- H22.7	H22.10- H23.2	H23.4- H23.7	H23.10- H24.2	H24.4- H24.7
総合的海洋管理学										
公開講座聴講生(A)	—	—	15	18	20	22	28	17	27	
履修学生	【履修パターン】									
	1期 ・	21	21							
	1期 ・2期		1	1						
	2期 ・			16	16					
	2期 ・3期				1	1				
	3期 ・					16	13			
	3期 ・4期						14	10		1
	4期 ・							10	10	
	4期 ・5期								25	22
	5期 ・									1
履修学生計(B)	21	22	17	17	17	27	20	35	24	27
単位取得人数	13	13	17	17	16	27	20	34	22	
修了年度	H20年度		H21年度		H22年度		H23年度		H24年度	
修了人数(修了時期)	13 (H21.3)		15 (H22.3)		1 (H22.9)		16 (H24.3)			
					12(H23.3)					
修了人数計(累計)	13		28		41		57			
履修人数計(A + B)	21	22	32	35	37	49	48	52	51	

## 第1期～第4期修了生ポスターセッション開催実績(総括表)

2012.2.17

	第1回	第2回	第3回	第4回
名 称	第1期生	第2期生	第3期生	第4期修了生 修了生(OB)講演会
開催日	2009年2月23日(月)	2010年2月22日(月)	2011年2月21日(月)	2012年2月13日(月)
ポスター 発表 件数	13件 (修了ポスターのみ)	19件 (修了ポスター15件、 海外派遣報告 4件)	15件 (修了ポスター13件、 海外派遣報告 2件)	25件 (修了ポスター20件、 海外派遣報告 5件)
参加者数	ポスターセッション 40名	ポスターセッション 55名	ポスターセッション 40名	ポスターセッション 72名



(写真:左2枚 第3回,2011.2.21)  
右 第4回,2012.2.13)



# 学生海外派遣事業の実績(2009-2012、計12人)

1. デンマーク工科大学(デンマーク) 2009.10.04 – 2010.1.12
2. デラウェア大学(米国) 2009.10.01 – 2009.12.27
3. プラパー大学(タイ) 2010.1.4 – 2010.1.18
4. サンパウロ大学(ブラジル) 2010.1.18 – 2010.2.7
5. 上海交通大学(中国) 2010.10.20 – 2010.12.21
6. DHI デンマーク水理研究所(デンマーク) 2010.11.28 – 2010.12.25
7. セント・アンドルーズ大学(英国) 2011.1.4 – 2011.3.15
8. 南太平洋大学(フィジー) 2011.1.29 – 2011.2.28
9. 国立台湾大学(台湾) 2011.9.5-2012.2.10
10. バンドン工科大学(インドネシア) 2011.9.20-2011.11.6
11. キーンズランド大学(オーストラリア) 2011.9.27-2011.12.5
12. ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)・ワシントン大学(アメリカ)他 2012.2.27- 2012.3.11.



副専攻プログラム履修生の海外短期派遣事業



# 修了生の主な進路(第1期 - 第4期)

(独)水産総合研究センター 中央水産研究所 / 遠洋水産研究所	大成建設	JR東日本
(独)海上技術安全研究所	清水建設	JR西日本
(独)国際協力機構	五洋建設(2)	日産自動車
(一財)日本海事協会	東亜建設工業	トヨタ自動車
海上保安大学校	北陸電力	水ing
IHI(2)	北海道ガス	リアルテック・セミコンダク ター・ジャパン
IHIマリンユナイテッド	コマツ	琉球新報社
川崎造船	日本工営	NPO Discover Blue
三井造船(2)	三洋電機	逗子市沼間小学校
ユニバーサル造船	建設技術研究所	
今治造船	東京都(2)	
新日鉄エンジニアリング	富山県	国土交通省
川崎汽船	横浜市	中部地方整備局
飯野海運	福山市	韓国海洋警察庁(2)
三井海洋開発(2)	日立ハイテクノロジーズ	
	みずほ総合研究所	

## 海洋分野の人材育成の基軸

1. 専門性: 当該専門分野における高度な研究開発能力を有する人材。
2. 学際性: 文系・理系を問わず学際的な幅広い知識情報に基づく的確な判断力を有し、国際的に議論をリードできる技術分野を複数持つ人材。
3. 国際性: 海洋問題が基本的に国際的枠組みの中で解決しなければならないことに鑑み、国際交渉の場で通用する論理性と語学力、さらに胆力を有する人材。
4. 協調性: 内外に幅広いネットワークを有する人材、あるいは将来的に構築できる人材。
5. 行動規範: 海洋権益確保は国土保全と同義であることを理解できる人材。

## 海洋分野の人材育成にとって重要なこと

1. 「現場」からの発想を大切にして、専門分野の深化や他分野との融合に活かす。
2. 異分野の専門家との接点を通して、自分の持つ専門分野の開拓を行う。
3. 海外インターンシップや留学生の受入プログラムを促進し、国際的な協働と競争の中で人材を育てる。
4. 大学研究室における学問に関する基本的「しつけ」を行うとともに、国内外の企業や研究機関における滞在型の実務的共同研究を実施して、視野の広い研究者や高度専門職業人を育成する。
5. 自由な発想で交流できるような場を提供する。
6. 愛国心を持って国際協調を促進できる人材を育成する。